

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	問題解決型学習の展開、児童による課題づくり、児童相互の学び合いを中心とした主体的・対話的で深い学びをつくる指導方法の在り方を探る。	中 間 評 価		最 終 評 価	
環境作り		UDに配慮し、全ての児童が主体的・対話的で深い学びを行うことができる学習基盤をつくる。学習・生活ルールを統一し、全ての児童が安心して学習に臨めるようにする。				

■ 学年の取組内容

		学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	調 学				
	算数	調 学				
教科		学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学漢字学習に積極的に取り組んでいる。細部への注意はできておらず、細かい間違いが多い。また、文章の中で習った漢字を使わない児童が多い。 ・手紙や日記など、伝えて書くことが好きである。書く際に、特定の児童に拗音や拗長音などの間違いがある。 ・聞いて理解することが苦手な傾向がある。	・既習漢字や新出漢字の学習で、辺やつくりの気を付けて書くこと。 ・既習漢字や新出漢字を使って文を書くこと。 ・特殊音節に気を付けて書くこと。 ・聞いて理解すること。	・漢字学習の際、気を付けるところを明確に示す。また、漢字の由来などを話しながら、覚えやすくする。 ・正確で素速い語の読み能力を把握するアセスメント（MIM・PM）の結果を参考にしながら、特殊音節の学習の定着度を見極め、必要に応じて個別に指導する。 ・授業や帰りの会などで、スピーチの時間を設け、友だちが話していることを興味をもって聞き、質問するといったやりとりを行う。		→
	算数	学単純な計算問題はよくできている。 ・国語の読む力とも通ずるが、文章問題を読んで理解できていないことも多く、イラストから想像して問題を解くため、正しく立式ができない児童がいる。 ・表とグラフといった、見て比べる学習は得意である。	・文章問題で聞かれていることを明確にしながらか立式すること。	・単元別の文章問題ではなく、既習学習が混ざった問題に取り組ませる。そうすることで、問われていることは何かを読んで判断できるようにする。また、立式するときに必要な言葉を確認する。 ・どうして、そういう式になったのかを説明し合う機会を多く設ける。 ・「東京ベーシック・ドリル」やドリルなどを活用しながら、既習単元についての理解を確実にする。苦手な単元については、復習の時間を設ける。 ・長さでは、生活科の観察場面など、算数科以外の時間にも測量する体験を積ませる。		
3	国語	調前年度の学力調査では、すべての観点の正答率が全国平均を上回り、特に「話す・聞く能力」「読む能力」の正答率は全国を大きく上回った。一方で、物語の内容について、登場人物の行動や心情を読み取ることが苦手な児童が見受けられた。 学家庭学習に意欲的に取り組む児童が多い。漢字の書きと読みでも力がついてきている児童とそうでない児童の差が大きい。文章から根拠を見付けながら読んで自分の考えを表現したりすることについては、苦手とする児童も多い。	・既習漢字や新出漢字を字形や送り仮名、特別な読み方に気をつけながら正しく読み書きをすること。 ・場面の登場人物の行動や心情を読み取る力をつけること。 ・自分の考えを持ち、言葉の使い方に気をつけながら、相手に分かりやすい文章を書くこと。	・国語の授業だけでなく、授業の始めや朝の会、帰りの会などで、スピーチの時間を設ける。クラスでテーマを決めて、5～6分のスピーチを行い、その話題について話し合ったり、質問し合ったりする機会を増やす。 ・新出漢字を学ぶ際に、声に出して何度も唱えて覚えることができるようにする。定期的に漢字の習熟を確認する小テストを行う。誤答について練習をして、再度テストを行い、習熟を図る。 ・文学的な文章を読む際には、登場人物の様子を思い浮かべられるように、場面ごとの読み取りの前に、まずは挿絵を基に作品全体について理解できるようにし、情景描写や登場人物の心情表現に着目させて理解を深められるようにする。 ・書く目的をはっきりさせ、誰が読むのかという相手意識をもつように指導する。そのうえで、身近な出来事について、手軽に文章を書けるようにさせる。授業の終末に振り返りを書く際、思ったことや感じたことを簡単に会話する中で、書くためのヒントに気付かせる。		
	算数	調前年度の学力調査では、全国平均を上回っている。観点別にみると、すべての観点の正答率が全国を上回り、特に「数学的な考え方」「数量や図形についての技能」の正答率が全国を大きく上回った。一方で、「量と測定」の領域については知識・理解が十分身に付いておらず、課題が残った。 学算数の授業自体への取り組みの姿勢から、学習意欲が高いことが分かる。一方でかけ算九九や、時刻や量など基本的な内容に対する苦手意識をもつ児童が多く、基礎・基本の習熟が必要である。	・量と測定の領域、特に長さや嵩に関する領域の知識理解を身に付けること。 ・かけ算九九の基礎・基本を習熟させること。	・ものさしについては、数直線との関連を図ったり、大きい目盛り（cm）、小さい目盛り（mm）などの区別を付けたりして、その仕組みを理解させる。日頃から目盛りを読み取る機会を作る。また、1Lの量がどれくらいなのかという量感を育てるため、実際にペットボトルなどを用いて水を入れたり、測り取ったりする活動を取り入れる。 ・わり算やかけ算の筆算など、かけ算を扱う単元での九九の反復練習を授業中や宿題などに行い、習慣化を図る。 ・苦手意識のある単元では、既習事項の復習の時間を設けたり、ドリル学習を行ったりして基礎基本の習熟を図る。 ・各単元末や学期末には、「東京ベーシック・ドリル」や「フォローアップシート」を活用し、個人の達成カードで既習内容に関する自己の到達度や苦手とする領域を児童自身が認識して取り組めるようにする。		

4	国語	<p>調昨年度の学力テストでは「書くこと」の領域、特に漢字と作文で大きく課題が見られた。また学力分布図は広い分散傾向となっており、児童間の力の差が大きくなることが分かる。</p> <p>学書く作業そのものに抵抗感がある児童がとて多い。また他の授業においてもノートを書くときに非常に時間がかかることがある。書くことに慣れていないことがうかがえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前年度までの漢字、および語彙の習得を確かなものにする。 基本的な文章モデルを習得させること。 書くことへの抵抗感をなくすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシック・ドリル」や「フォローアップシート」を中心に漢字や語彙の習得を図る。書くことが苦手な児童もいるので、ただノートに練習するだけでなくフラッシュカードやICTを使用して様々な支援ができるようにして理解を促す。 モデル文から基本的な書き方の構造を学ぶ。モデル文を使って自分の考えを書くことを通して説明文や記録文など基本的な文の構成を習得する。 各教科において書くことを意図的に行い、日常の中で文章を書くことに慣れる。 		
	算数	<p>調昨年度の学力テストでは「たし算・ひき算」の領域で大きく課題となった。また国語と同様に学力分布図から分散傾向にあることが示され、児童間の力の差が大きくなることが分かった。</p> <p>学習熟度が十分でないグループでは基本的な四則計算でつまづいている児童が多い。習熟度が高いグループでは自分の考えを言葉や図で表したり、それらを他の児童に伝えたりすることを苦手とする児童が多く、数学的な考え方を深めていくことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> たし算、ひき算などの基本的な計算力を身に付けさせること。 前年度までの各領域の技能や知識、理解の習得を確かなものにする。 数学的な考えを表現し伝え合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシック・ドリル」や「フォローアップシート」を中心に基本的な計算力の習得を図る。前学年のものから始め、年度末達成度の向上を目指す。 習熟が十分でないクラスにおいては前年度までの復習を学習の始めに行い、つまづきを少なくしてから新しい学習に取り組めるようにする。 高い習熟度のクラスでは考えを図や言葉で表す機会を多く設ける。計算や作図の技能だけでなく、考え方について交流ができるように時間を計画的にとり、児童同士の交流の中で考えを深められるようにする。 		
5	国語	<p>調昨年度の新宿区学力定着度調査の結果では、基礎問題、活用問題ともに新宿区の平均を上回り、学力の定着が見られたが、「作文」については、新宿区の平均と同程度にとどまった。</p> <p>学家庭学習等での漢字の習熟のための練習は丁寧に行える児童が多い。授業中の発言や挙手も活発で意欲的ではあるが、感想や考えを書く作業に抵抗感を示す児童が少なくない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を用いて正しく文章を書くことと、語彙の習得を確かなものにする。 書くことへの抵抗感をなくすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や言語単元の導入時などで、漢字ドリルや「東京ベーシック・ドリル」、「フォローアップシート」を活用し、既習の漢字や語彙、文法についての復習と習熟を図る。特に漢字ドリルについては、繰り返し習熟が図れるように漢字練習ノートを用い、週に4日程度は家庭学習の課題とする。 授業後の振り返りの時間を活用して、自分の感想や考えを文章化する活動を多く取り入れる。さらに、それらの中で自分の書いた文章を見直し、推敲するように習慣づけていく。 		
	算数	<p>調昨年度の新宿区学力定着度調査の結果では、基礎問題、活用問題ともに新宿区の平均を上回り、学力の定着が見られた。問題の内容別正答率を見ると、特に「計算のきまり」「角の大きさ」「数量関係」で良好な様子が見られた。一方で、「垂直・平行と四角形」「図形」「面積」では、新宿区の平均程度の正答率にとどまった。</p> <p>学習熟度が十分ではないグループでは、三角定規や分度器などを使用して、正確に作図することが難しい様子の児童も見られる。また、技能的な習熟が定着しているグループにおいても、解法を説明したり、他の解法を見つけたりすることには課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した技能を確実に習熟させること。 解法を自分の言葉で説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や言語単元の導入時などで、計算ドリルや「東京ベーシック・ドリル」、「フォローアップシート」を活用して復習に取り組むとともに、再度、正しい手順で作図したり、測定したりすることについて指導をしていく。特に計算ドリルについては、繰り返し習熟が図れるように計算練習ノートを用い、週に4日程度は家庭学習の課題とする。 自力解決の時間を十分に確保し、解法を交流する際は、ペアや全体など様々な形の交流を取り入れ、解法の説明の仕方を互いに学び合えるようにする。また、考えを共有する場面等でICT環境の有効な活用を図っていく。 		
6	国語	<p>調前年度実施の学力調査の結果では、基礎問題、活用問題ともに新宿区の平均を上回り、学力の定着が見られた。特に「漢字を書く」「物語の内容を読み取る」ことに優れていた。</p> <p>学漢字の読み書きの家庭学習には意欲的に取り組む児童が多い。文章から根拠を見付けながら読んだり自分の考えを表現したりすることについては、苦手とする児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や文章を大切にしながら書かれてあることを正しく読み取る。 要旨をまとめること。 構成に沿って自分の考えを表現豊かに書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 長文教材の前に組み込まれている短文教材を使って、長文教材に入る前に、要点を正しく捉えたり、構成を捉えたりする学習を丁寧に行う。 要点を捉える、要約をする、要旨をまとめるといった段階的指導を行うとともに、要旨をまとめる際の手だてを示す。 表現の種類を提示したり、互いに学び合う中で新たな表現を獲得したりすることを通して、表現豊かに書く力を身に付けられるようにする。 		
	算数	<p>調前年度実施の学力調査の結果では、基礎問題、活用問題ともに新宿区の平均を上回り、学力の定着が見られたが、「単位量あたりの大きさ」では新宿区の平均程度にとどまり、課題が見られた。</p> <p>学全学年までの計算は定着している児童が多いが、文章題を数直線に整理したり、自分の言葉で解法を説明したりすることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した計算問題の確実な習熟を図ること。 題意を捉え、適切に数直線に整理すること。 解法を自分の言葉で説明すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 「東京ベーシック・ドリル」や「フォローアップシート」をはじめとした基礎、基本の定着を図る取組みを継続して実施する。 数直線のかき方を再度指導し、様々なパターンの問題に対し数直線に整理して立式する課題に取り組めるようにする。 自力解決の時間を十分に確保し、解法を交流する際は、ペアや全体など様々な形の交流を取り入れ、解法の説明の仕方を互いに学び合えるようにする。 		
音楽	<p>学低学年では、互いの声や音をよく聴き、合わせようとする態度の土台ができてきている。友達と協同し学習する楽しさも感じ始めたところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 中学年では、表現する楽しさや、他の表現のよさを感じる態度が身に付いている。思いや意図を表現するための技能は個人差がある。 高学年では、新しい知識や経験に対して主体的に学ぶ態度が身に付いている。一人一人がもっている思いや意図を生き生き表現するための創意工夫や技能は課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの表現を大切にし合える認め合いの関わり。 思いや意図を表現するための工夫や技能を向上させること。 器楽実技や読譜能力を高めること。 音楽づくりの素地を養うこと。 楽曲のよさを捉えて最後まで大切に聴くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> どの友達とも交流し、協同して学び合える関わり合いを大切にされたグループ学習を多く取り入れる。 試行錯誤し思いや意図を表現するための学習提示や教材の工夫をする。 器楽活動での個別指導の充実を図る。 表現と鑑賞を関連させた題材構成を行う。 系統立てた鑑賞や音楽づくりの学習指導を取り入れる。 			

図工	<p>学 低学年は、実際に見たり、材料に触ったりすることなど、体の感覚を働かせた表現を得意とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学年は、材料や道具などへの興味・関心が、表現活動への意欲となって発想を広げる傾向がある。 ・ 高学年は、今まで学んできたことを活用して自分なりの表現をする力が育ち始めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じた指導の工夫をし、課題をもつ児童には、休み時間等を活用して個別指導ができる時間の設定すること。 ・ 自分以外の人の感じ方や表現の違いに気付けるようにするための話の聞き方についての学習ルールの定着を図ること。 ・ 発想したことを表現につなげる見通しを人や物と関わりながら、見つけ出せるような指導の工夫をすること。 ・ イメージを膨らませ、自分の表現を具現化する過程で、考えを明らかにし計画的に進められるような授業づくりを行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題がある児童に対して昼休みを活用し、個別指導ができる時間を設ける。 ・ 図工室のルールを明確にするとともに、鑑賞の時間を使って、児童が互いに話をしたり聞いたりする活動を充実する。 ・ 試しながら決めていく活動を繰り返す。その中で人と話したり、工夫を見付け出したりする機会を増やし、活動の見通しがもてるようにしていく。 ・ ワークシートを活用して自分の考えを明らかにし、必要なものや手順を考えられるようにしていく。 		
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。